

小学校三年生のとき、日本に衝撃的な歌が生まれた。その歌は『SMAP』の『世界に一つだけの花』である。今ではこの曲名を知らない日本人はほとんど居ないだろう。子供から老人までどんな年齢の人にも愛されているこの歌、この歌詞。なぜこんなにも多くの人に感動を与えることができるのか。この歌の魅力とは何だろうか。

この歌のもっとも惹かれる部分は、『ナンバーワンにならなくてもいい、もともと特別なナンバーワン』である。歌詞カードを見ると、英語ではなく、日本語で書かれている。多くの人々はこの言葉を聞いて変に思ったであろう。何故、日本のトップを走っている『SMAP』がこのようなことを言うのだろうか。しかし、この言葉を私が初めて聞いた時、人間一人一人の優しさと強さを感じた。それは、この歌の題名のように、私達一人一人が世界に一つだけの花だからであると思う。今の日本の技術を持つてすれば、同じ遺伝子を持った同じ花を作ることができるだろう。また、クローン人間を作ることでもできるだろう。だが、クローンがあふれている世界にこの歌を流しても、現在ほどの感動は生まれなかったはずである。それは何故か。皆同じだからである。個性の存在しない世界では、この歌は何の力も持っていないのである。この歌を輝かせているのは、我々の個性なのである。個性こそが、世界に一つだけの花を形成する最も重要な成分である。個性があるからこそ、一人一人に違いが生まれ、そのことによって一人一人が輝けるのである。

そしてこの歌に必要な成分のもう一つは、努力である。『がんばって咲いた花はどれもきれいだから仕方ないね』この歌詞は、まさに努力を積み重ねた人こそが素晴らしいと言っているように聞こえる。しかし、私はそうではないと思う。努力をした者が素晴らしいのではない。努力をする姿が素晴らしいのだ。そして努力する姿にも個性が表れる。それこそが世界に一つだけの花の意義だと思う。表面的な意味では当たり前前のことである。しかし内面的に見ると個人個人で違う意味にとることができるだろう。歌詞の中に『その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい』とあるが、一つの目標に向かって生きる。これこそが人生の意味だと思う。

最後に、『この中で誰が一番だなんて、争うこともしないで』という部分は、努力をするのは、ナンバーワンになるためだけではない。自分自身を磨き上げ、より自分が飛躍できるかどうかということを示唆していると思う。今日、日本企業は、業界内で一番をとることしか考えておらず、お客様のことを必ずしも考えているとは言えない部分が多くある。

この歌を通して、日本全体、いや世界全体が変わることができると思う。自分の利益のためだけでなく、他人のことも考えなければならぬのである。これが前提となって個性があり、努力があり、そして『世界に一つだけの花』が存在すると思う。この言葉の本当の意味は、与えられるものではなく、自分で見つけ、そして行動することだと思う。

日本語の歌詞というのは、たった一曲の中にこれほどまでに多くの意味を与え、我々に考えさせることができる。個人で違った意味を汲み取ることができ、そこでもまた、個性を見出すことができるのだ。日本語の素晴らしい部分は、個性を生み出すということなのだと思う。